

## 専攻教育課程照合表

専門看護分野：精神看護

|              | 科目                         | 大学院該当科目  | その科目の内容  | 履修<br>単位 | 認定<br>単位 |
|--------------|----------------------------|----------|--|----------|----------|
| 専攻分野<br>共通科目 | 1. 歴史・法制度に関する科目            | 精神看護学特論Ⅰ | 精神保健医療福祉に関する歴史と法制度や体制、日本における動向および当事者の活動の変遷を学び、精神保健看護の立場から、精神保健医療福祉の体制が抱えている課題や今後のあり方について理解を深める。  | 2        | 2        |
|              | 2. 精神看護の理論に関する科目           | 精神看護学特論Ⅳ | 精神保健上の問題をもつ対象の回復(リハビリ)を支援するために、必要な理論と技法を習得する。また、精神看護の専門看護師として必要な役割や機能について学ぶ。   | 2        | 2        |
|              | 3. 精神看護のアセスメント・支援モデルに関する科目 | 精神看護学演習Ⅰ | 看護に必要な援助モデルを学び、対象のアセスメントおよび支援する実践能力を、演習を通して養う。また精神看護の専門看護師として必要な機能と役割である、実践、コンサルテーション、倫理調整、コーディネーション、教育、研究について学び、必要なアセスメントと援助計画立案に向けて、事例検討を通して実践能力を養う。                                   | 2        | 2        |
|              | 4. 精神の健康状態の評価に関する科目        | 精神看護学特論Ⅲ | 精神の健康状態を評価する視点と評価の手法、日常生活行動と精神の健康状態との関連を評価する手法を学び、対象のアセスメントや具体的な看護援助、精神科治療技法による介入について理解を深める。   | 2        | 2        |
|              | 5. 心理・社会的療法に関する科目          | 精神看護学演習Ⅱ | 精神保健上の問題をもつ対象の回復(リハビリ)を支援するため、対象・家族・集団に対し必要な精神科治療技法および、心理・社会的療法について学ぶ。また、精神看護の専門看護師としての治療的なかわりを理解し、さらに自己のかわりについて相互作用の視点から理解を深める。   | 2        | 2        |
|              | 6. 精神科薬物・身体療法に関する科目        | 精神看護学特論Ⅱ | 精神疾患の病態治療論および精神科薬物療法、身体療法、心理測定法などの治療的な介入を行うための理論的基盤を養う。また、精神・身体状態のアセスメントができるために、精神保健上の問題のメカニズムを心身医学の捉え方をふまえて、理解し診断・治療について学ぶ。それらを基に、精神看護の視点から対象のアセスメントを深め、薬物療法の評価や服薬支援に関する看護援助について理解を深める。 |          |          |
| 専攻分野<br>専門科目 | 1. 救急・急性期精神看護              |          |  |          |          |
|              | 2. 地域精神看護                  |          |  |          |          |
|              | 3. リエゾン精神看護                | 精神看護学特論Ⅴ | 心身医学・看護の立場をふまえた上で、リエゾン精神看護の役割と機能、その理論的枠組み、対象の特徴、実際の活動などについて学ぶ。   |          |          |

|      |    |          |   |                 |   |
|------|----|----------|---|-----------------|---|
| 実習科目 | 実習 | 精神看護学実習Ⅰ | 精神看護学実習Ⅰ<br>(CNS 役割実習 2 単位)<br>精神専門看護師の役割である、実践、教育、相談、調整、コンサルテーション、研究について、実際に臨床の場でどのように実践されているかを学ぶ。   | 2               | 2 |
|      |    | 精神看護学実習Ⅱ | 精神看護学実習Ⅱ<br>(精神科診断・治療実習 2 単位)<br>精神看護専門看護師として精神科診断や治療に関する判断能力および看護援助へのアセスメントを、実際に臨床の場でどのように実践されているかを学ぶ。   | 2               | 2 |
|      |    | 精神看護学実習Ⅲ | 精神看護学実習Ⅲ<br>(上級看護実践実習 6 単位)<br>精神看護領域とリエゾン精神看護分野について、医療施設における直接ケアおよび間接ケアを行い、精神専門看護師に必要とされる高度な看護実践能力を習得する。上記については、それぞれ実習終了時に単位を認定する。<br>上級実践看護実習①精神科看護領域での直接ケア (必修：2 単位)<br>上級実践看護実習② リエゾン精神看護領域での直接ケア (必修：2 単位)<br>上級実践看護実習③ 精神科看護領域または、リエゾン看護領域のいずれかでの間接ケア (選択必修：2 単位) | 6               | 6 |
|      |    |          |   | 認定合計単位<br>24 単位 |   |

# 精神看護学特論 I

2 単位（春学期）

科目責任者 浅沼奈美（本学精神看護学 教授）

## 1. 教育目的

精神保健医療福祉に関する歴史と法制度や体制、国際的な動向、日本における動向および当事者の活動の変遷を学び、精神保健看護の立場から、精神保健医療福祉の体制が抱えている課題や今後のあり方について理解を深める。

## 2. 教育目標

- 1) 日本の精神保健医療福祉に関する法制度や体制と歴史的な変遷について理解する。
- 2) 精神障害者が社会復帰するための制度と社会資源の活用方法を習得する。
- 3) 精神保健医療福祉の体制の現況から精神障害者の権利擁護に向け、今後の看護職の役割について理解する。

## 3. 教育内容

- ① 精神保健医療福祉の歴史的変遷（世界における古代・中世・近代精神医療）
- ② 精神障害者の人権擁護とスティグマ
- ③ わが国における精神保健医療福祉の法制度の変遷 I
- ④ わが国における精神保健医療福祉の法制度の変遷 II
- ⑤ 精神保健医療福祉に関する国際動向
- ⑥ 精神障害者の職業リハビリテーションと法制度
- ⑦ 精神障害者の地域生活支援制度 I（地域移行支援）
- ⑧ 精神障害者の地域生活支援制度 II（ケアマネージメントと福祉施設・司法精神保健福祉）
- ⑨ 精神障害者の地域生活支援制度 III（精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム）
- ⑩ 精神障害者の地域生活支援制度 IV（精神科訪問看護）
- ⑪ 精神障害者の地域生活支援制度 V（ひきこもりの地域支援）
- ⑫ 学校精神保健に関する法制度
- ⑬ 産業精神保健に関する法制度
- ⑭ セルフヘルプ・グループとピアカウンセリング・WRAP（元気回復行動プラン）・当事者研究
- ⑮ 当事者活動と専門職の支援

## 4. 教育の進め方

講義、学生のプレゼンテーションと討議で進行する。

講義・討議：⑥⑦⑧⑩⑪⑫、プレゼンテーション・討議：①②③④⑤⑨⑬⑭⑮ 見学：⑨⑪⑮

【教科書・参考書】別紙参照

【事前学習】講義：講義の各回の法制度や体制などの内容についてまとめ、疑問点を整理しておく。

プレゼンテーション：プレゼンテーション資料を作成し、討議したい点を明らかにしておく。

【事後学習】講義内容、討議内容を振り返り、復習する。

## 5. 成績評価方法

プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）

# 精神看護学特論Ⅱ

2単位（春学期）

科目責任者 浅沼奈美（本学精神看護学 教授）

## 1. 教育目的

精神疾患の病態治療論および精神科薬物療法、身体療法、心理測定法などの治療的な介入を行うための理論的基盤を養う。また、精神・身体状態のアセスメントができるために、精神保健上の問題のメカニズムを心身医学の捉え方をふまえ、理解し診断・治療について学ぶ。それらを基に、精神看護の視点から対象のアセスメントを深め、薬物療法の評価や服薬支援に関する看護援助について理解を深める。

## 2. 教育目標

- 1) 各精神疾患の病態治療論を基盤にした、薬物療法や様々な治療方法について学び、看護ケアを行うためのアセスメント方法を理解できる。
- 2) 精神科看護やリエゾン精神看護における薬物療法の臨床効果や有害作用の評価ができる。
- 3) 精神科薬物療法および身体療法の共同意思決定による看護援助が理解できる。

## 3. 教育内容

- ① 精神科に用いる治療と検査Ⅰ 精神科薬物療法におけるアセスメント
- ② 精神科に用いる治療と検査Ⅱ 精神科薬物療法と共同意思決定（SDM）
- ③ 精神科に用いる治療と検査Ⅲ SPECT・m-ECT・EEG・rTMS・D-dimer・心理検査など
- ④ 精神疾患の診断と薬物療法（不安障害・強迫性障害）
- ⑤ 精神疾患の診断と薬物療法（心的外傷性ストレス障害・適応障害）
- ⑥ 精神疾患の診断と薬物療法（パーソナリティ障害・摂食障害）
- ⑦ 精神疾患の診断と薬物療法（発達障害・物質関連障害）
- ⑧ 精神疾患の診断と薬物療法（統合失調症）
- ⑨ 精神疾患の診断と薬物療法（気分障害）
- ⑩ 精神疾患の診断と薬物療法（症状性精神障害：せん妄・心身症）
- ⑪ 精神疾患の診断と薬物療法（老年期精神障害：認知症含む・睡眠障害）
- ⑫ 精神科薬物療法と看護アセスメント
- ⑬ リエゾン精神看護における薬物療法の評価
- ⑭ 精神科薬物療法における服薬支援
- ⑮ 服薬心理教育

## 4. 教育の進め方

講義、学生のプレゼンテーションと討議で進行する。

講義・討議：①②⑦⑨⑩⑪⑫⑬⑭、プレゼンテーション・討議：③④⑤⑥⑧⑮

【教科書・参考書】別紙参照

【事前学習】講義：講義の各回の薬物・身体療法に関する内容についてまとめ、疑問点を整理しておく。

プレゼンテーション：プレゼンテーション資料を作成し、討議したい点を明らかにしておく。

【事後学習】講義内容、討議内容を振り返り、復習する。

## 5. 成績評価方法

プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）

# 精神看護学特論Ⅲ

2 単位（春学期）

科目責任者 浅沼奈美（本学精神看護学 教授）

## 1. 教育目的

精神看護の専門看護師として、精神の健康状態を評価する視点と評価の手法、日常生活行動と精神の健康状態との関連を評価する手法を学び、対象のアセスメントや具体的な看護援助、精神科治療技法による介入について理解を深める。

## 2. 教育目標

- 1) 精神科診断基準および精神症状の評価法、心理的・社会的・職業的な機能の全体評価方法などを学び治療的な介入を行うための理論的基盤を基に、精神看護の視点から対象をアセスメントし、援助計画を立案することができる。
- 2) 受理面接の演習にて、精神症状の評価を活用することができる。
- 3) 精神科外来で受理面接した事例の問診から、診断・処方についてのアセスメントを理解できる。

## 3. 教育内容

- ① 精神の健康状態の評価Ⅰ（DSM および ICD による査定）
- ② 精神の健康状態の評価Ⅱ（DSM および ICD による査定）
- ③ 精神看護における精神の健康状態の評価Ⅰ（MSE・MHA を用いた査定）
- ④ 精神看護における精神の健康状態の評価Ⅱ（MSE・MHA を用いた査定）
- ⑤ 精神看護における精神の健康状態の評価Ⅲ（MSE・MHA を用いた査定）
- ⑥ 精神看護における心理・社会的健康状態の評価（GAF を用いた査定）
- ⑦⑧⑨ 精神看護技術による看護援助Ⅰ 外来での問診および診断・処方に関するアセスメント
- ⑩⑪⑫ 精神看護技術による看護援助Ⅱ 外来での問診および診断・処方に関するアセスメント
- ⑬⑭⑮ 精神看護技術による看護援助Ⅲ 外来での問診および診断・処方に関するアセスメント

## 4. 教育の進め方

講義、学生のプレゼンテーションと討議、外来演習で進行する。

講義・討議：①②③④⑤⑨⑫⑮、プレゼンテーション・討議：①②⑥ 外来演習：⑦⑧⑩⑪⑬⑭

【教科書・参考書】別紙参照

【事前学習】講義：講義の各回の健康状態の評価についてまとめ、疑問点を整理しておく。

プレゼンテーション：プレゼンテーション資料を作成し、討議したい点を明らかにしておく。

【事後学習】講義・討議内容、演習内容を振り返り、復習する。

## 5. 成績評価方法

プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）

# 精神看護学特論IV

2単位（秋学期）

科目責任者 佐藤美保（本学精神看護学 准教授）

## 1. 教育目的

精神看護の専門看護師として、精神保健上の問題をもつ対象の回復(リカバリー)を支援するために、必要な理論と技法を習得する。また、精神看護の専門看護師として必要な役割や機能について学ぶ。

## 2. 教育目標

- 1) 精神保健上の問題をもつ対象に、適切な看護援助を提供するために必要な理論を理解する。
- 2) 精神看護の専門看護師として必要な役割と機能について理解する。

## 3. 教育内容

- ① 対象理解と生活の評価に必要な基礎的理論Ⅰ (Bio - Psycho - Social モデル・セルフケアモデル)
- ② 対象理解と生活の評価に必要な基礎的理論Ⅱ 精神力動論①（自我の構造と機能・不安と防衛機制）
- ③ 対象理解と生活の評価に必要な基礎的理論Ⅲ 精神力動論②（フロイトの考え方の成り立ち～発達段階）
- ④ 対象理解と生活の評価に必要な基礎的理論Ⅳ 心理・社会的発達に関する理論
- ⑤ 対象関係論（クライン）・対人関係論（ペプロウ）
- ⑥ ストレス・コーピング論（セリエ、ラザロス）、脆弱性－ストレス－保護因子モデル（リバーマン）、危機理論
- ⑦ 家族システム論と家族看護（多問題家族含む）
- ⑧ セルフケア論（オレム・アンダーウッド理論）
- ⑨ セルフケア論（オレム・アンダーウッド理論）と自立に向けた退院支援
- ⑩ 回復（リカバリー）理論
- ⑪ レジリエンス・エンパワメント
- ⑫ ストレングスモデル
- ⑬ トラウマインフォームドケア・ハームリダクション
- ⑭ 精神科領域におけるチーム医療の展開－多職種とのチームアプローチ・共同意思決定(SDM)・共同創造
- ⑮ 精神看護倫理

## 4. 教育の進め方

講義、学生のプレゼンテーションと討議で進行する。

講義・討議：⑧⑩⑫⑬⑭⑮、プレゼンテーション・討議：①②③④⑤⑥⑦⑨⑪

【教科書・参考書】別紙参照

【事前学習】講義：講義の各回の理論と技法に関する内容についてまとめ、疑問点を整理しておく。

プレゼンテーション：プレゼンテーション資料を作成し、討議したい点を明らかにしておく。

【事後学習】講義内容、討議内容を振り返り、復習する。

## 5. 成績評価方法

プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）

# 精神看護学特論Ⅴ

2単位（秋学期）

科目責任者 佐藤美保（本学精神看護学 准教授）

## 1. 教育目的

心身医学・看護の立場をふまえた上で、リエゾン精神看護の役割と機能、その理論的枠組み、対象の特徴、実際の活動などについて学び、より実践的な探求を行う。

## 2. 教育目標

リエゾン精神看護の役割と機能、その理論的枠組み、対象の特徴、実際の活動などについて学び、実践に生かすことが出来る。

## 3. 教育内容

- ① リエゾン精神看護Ⅰ リエゾン精神看護の位置づけと理論的枠組み
- ② リエゾン精神看護Ⅱ 対象の特徴と実際の活動（不安・怒りが強い患者）
- ③ リエゾン精神看護Ⅲ 対象の特徴と実際の活動（拒否・拒絶が強い患者、不眠を有する患者）
- ④ トラウマケアー心的外傷Ⅰ
- ⑤ トラウマケアー心的外傷Ⅱ
- ⑥ サイコオンコロジーⅠ 精神腫瘍学における看護とアセスメント
- ⑦ サイコオンコロジーⅡ 対象の特徴と実際の活動（疼痛を抱えるがん患者、AYA世代のがん患者、がん患者の就労）
- ⑧ サイコオンコロジーⅢ 腫瘍精神医学の現状と課題
- ⑨ サイコオンコロジーⅣ 腫瘍精神医学における精神看護の現状と課題
- ⑩ せん妄の症状マネジメント
- ⑪ うつ病の症状マネジメント
- ⑫ 救命救急センターにおけるコンサルテーション
- ⑬ CNS活動の実際Ⅰ 総合病院におけるCNSの役割の現状と課題（リエゾン精神看護と組織）
- ⑭ CNS活動の実際Ⅱ 総合病院におけるCNSの役割の現状と課題（リエゾン精神看護とチーム）
- ⑮ CNS活動の実際Ⅲ 総合病院におけるCNSの役割の現状と課題（リエゾン精神看護と教育および研究）

## 4. 教育の進め方

講義、学生のプレゼンテーションと討議で進行する。

講義・討議：①②③⑤⑥⑫⑬⑭⑮、プレゼンテーション・討議：①④⑥⑦⑩⑪ グループワーク：⑧⑨

【教科書・参考書】別紙参照

【事前学習】講義：講義の各回の理論と技法に関する内容についてまとめ、疑問点を整理しておく。

プレゼンテーション：プレゼンテーション資料を作成し、討議したい点を明らかにしておく。

【事後学習】講義内容、討議内容を振り返り、復習する。

## 5. 成績評価方法

プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）

# 精神看護学演習 I

2 単位 (秋学期)

科目責任者 佐藤美保 (本学精神看護学 准教授)

## 1. 教育目的

精神看護の専門看護師として看護に必要な援助モデルを学び、対象のアセスメントおよび支援する実践能力を、演習を通して養う。また精神看護の専門看護師として必要な機能と役割である、実践、コンサルテーション、倫理調整、コーディネーション、教育、研究について学び、必要なアセスメントと援助計画立案に向けて、事例検討を通して実践能力を養う。

## 2. 教育目標

- 1) 精神看護のアセスメントに必要なモデルを学び、病態に合わせた援助計画を立案できる。
- 2) 自殺および災害時の対応やリスクアセスメントを理解できる。
- 3) 子どもと女性に関する精神保健・医療・福祉に関するアセスメントと支援を理解できる。
- 4) 精神看護の専門看護師として必要な機能と役割について学び、アセスメントから援助計画が立案できる。

## 3. 教育内容

- ①②精神看護における Bio - Psycho - Social モデルを用いたアセスメントと支援
- ③④精神看護におけるセルフケアモデルを用いたアセスメントと支援
- ⑤⑥精神看護におけるストレングスモデルを用いたアセスメントと支援
- ⑦⑧精神疾患患者の急性期におけるアセスメントと看護援助
- ⑨⑩精神疾患患者の慢性期におけるアセスメントと看護援助
- ⑪⑫依存症精神障害患者のアセスメントと看護援助
- ⑬⑭処遇困難患者のアセスメントと看護援助
- ⑮⑯自殺リスクのある患者のアセスメントと看護援助
- ⑰⑱災害時の精神保健医療の安全管理 (災害時の初期対応・治療継続・災害派遣精神医療チーム (DPAT) との連携・協力に関するアセスメントと援助計画)
- ⑲⑳精神の健康の保持増進及び病気の予防におけるアセスメントと看護援助 (子どもと女性のメンタルヘルス)
- ㉑㉒CNS の機能 I コンサルテーションにおけるアセスメントと援助計画
- ㉓㉔CNS の機能 II 倫理調整における患者・家族関係および臨床倫理に関するアセスメントと援助計画
- ㉕㉖CNS の機能 III コーディネーション 他職種とのコーディネーションに関する援助計画
- ㉗㉘CNS の機能 IV 教育・研究に関する援助計画
- ㉙㉚CNS の機能 V 臨床スタッフのメンタルヘルスに関する援助計画

## 4. 教育の進め方

講義、学生のプレゼンテーションと討議、演習で進行する。

講義・討議：①③⑤⑦⑨⑪⑬⑮⑰⑲⑳㉑㉓㉕㉗㉙、演習：グループワーク②④⑥⑧⑩⑫⑭⑯⑱㉒㉔㉖㉘㉚

【教科書・参考書】別紙参照

【事前学習】講義：講義の各回の看護アセスメントに関する内容についてまとめ、疑問点を整理しておく。

プレゼンテーション：プレゼンテーション資料を作成し、討議したい点を明らかにしておく。

【事後学習】講義・討議内容、演習内容を振り返り、復習する。

## 5. 成績評価方法 プレゼンテーション (40%)、課題レポート (60%)



## 精神看護学演習Ⅱ

2単位（春学期）

科目責任者 佐藤美保（本学精神看護学 准教授）

### 1. 教育目的

精神看護の専門看護師として精神保健上の問題をもつ対象の回復（リカバリー）を支援するため、対象・家族・集団に対し必要な精神科治療技法および、心理・社会的療法について学ぶ。また、精神看護の専門看護師としての治療的なかかわりを理解し、さらに自己のかかわりについて相互作用の視点から理解を深める。

### 2. 教育目標

- 1) 精神保健上の問題をもつ対象に適切な看護援助を提供するために精神療法的治療技法について理解する。
- 2) 精神看護の専門家として求められる治療的なかかわりについて理解する。
- 3) 自己理解を深めるためにプロセスレコードやロールプレイを用いて、自己の看護場面の相互作用を分析し理解する。

### 3. 教育内容

- ①②③精神看護技術による看護Ⅰ 面接技法 受理面接（外来での問診および診断・処方と看護援助計画）
- ④⑤⑥精神看護技術による看護Ⅱ 精神療法Ⅰ（精神力動論、支持的精神療法、芸術療法）
- ⑦⑧⑨精神看護技術による看護Ⅲ 精神療法Ⅱ（認知行動療法）
- ⑩⑪⑫精神看護技術による看護Ⅳ 集団精神療法
- ⑬⑭⑮精神看護技術による看護Ⅴ SST（social skill training）の理論と技術
- ⑯⑰⑱精神看護技術による看護Ⅵ 心理教育・家族心理教育の理論と技術
- ⑲⑳㉑精神看護技術による看護Ⅶ プロセスレコード
- ㉒㉓㉔精神看護技術による看護Ⅷ ロールプレイ・サイコドラマ
- ㉕㉖㉗精神看護技術による看護Ⅸ 事例検討とグループスーパービジョン
- ㉘㉙㉚精神看護技術による看護Ⅹ リラクセーションの理論と技術

### 4. 教育の進め方

講義、学生のプレゼンテーションと討議、演習で進行する。

講義・討議：⑥⑦⑨⑩⑬⑱⑲⑳㉓㉔、プレゼンテーション・討議：④⑤⑬

演習：⑥⑧⑨⑪⑫⑬⑭⑮⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚

外来演習：①②③

【教科書・参考書】別紙参照

【事前学習】講義：講義の各回の理論と技法に関する内容についてまとめ、疑問点を整理しておく。

プレゼンテーション：プレゼンテーション資料を作成し、討議したい点を明らかにしておく。

【事後学習】講義内容、討議内容を振り返り、復習する。

### 5. 成績評価方法

プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）

精神看護学実習 10 単位 (春・秋学期)

科目責任者 浅沼 奈美 (精神看護学 教授)

1. 教育目的：精神看護領域において、精神看護の専門性および特殊性をふまえ、高度のアセスメント能力と、専門看護師に必要とされる卓越した実践、教育、相談、調整、研究が自律的に実践できる能力を習得する。
2. 教育目標
  - 1) 精神看護専門看護師の役割を理解し、卓越した実践、教育、相談、調整、研究ができる。
  - 2) 精神疾患患者および精神保健上の問題を抱えている対象およびその家族、その看護に携わっているスタッフに対し精神看護の専門性、特殊性をふまえたアセスメントと看護実践ができる。
  - 3) 精神疾患患者および精神保健上の問題を抱えている対象およびその家族が抱える倫理的問題に対し、対象者の尊厳を守りながら問題解決をはかることができる。

3. 実習目標

[実習目標と内容]

| 実習目標   | 実習内容  |
|--|---|
| 1. 実践<br>精神疾患患者および精神保健上の問題を抱えている対象およびその家族に対する卓越した看護実践を行う | 複雑で困難な問題を有する対象に対し、個別に応じたケア提供方略、アセスメント、ケアプランを作成し、質の高い卓越した看護の実践を行う。             |
| 2. 教育<br>看護職者に対するケアの質の向上のための教育機能を果たす                     | 他の看護職者への教育を講義・演習で培った知識や技術を基に、臨床指導者と共に実践する。                                    |
| 3. 相談<br>看護職者と他のケア提供者に対するコンサルテーションを実践する                  | 複雑で困難な実践状況において、看護職者や他のケア提供者に対し、精神看護の専門的立場での相談や意見の提供を臨床指導者と共に実践し、問題への対処、解決を図る。 |
| 4. 調整<br>円滑なケア提供のためのコーディネーションを実践する                       | 複雑な問題を有する事例に対し、継続したケア提供を円滑に実施するために、他職種との連携、調整を図る。                             |
| 5. 研究<br>専門的知識・技術の向上や開発を図るため研究活動に取り組む                    | 精神看護分野において、研究的取り組みを必要とする課題を見出し、問題解決やケアの質的向上に向けた研究活動を実践する。                     |
| 6. 倫理<br>倫理的な葛藤や問題が生じた場合、解決への取り組みを図る                     | 精神看護分野における倫理的課題に対し、患者・家族、ケア提供者間に立ち、問題解決や対処のための様々な検討を行い調整を図る。                  |

精神看護学実習Ⅰ (2 単位) : [CNS 役割実習]

精神看護専門看護師の役割である、実践、教育、相談、調整、コンサルテーション、研究について、実際に臨床の場でどのように実践されているかを、精神看護専門看護師のスーパービジョンを受けながら学ぶ。

精神看護学実習Ⅱ (2 単位) : [医療施設における精神科診断・治療実習]

精神看護専門看護師として精神科診断や治療に関する判断能力および看護援助へのアセスメントを、実際に臨床の場でどのように実践されているかを、精神科医や精神看護専門看護師のスーパービジョンを受けながら学ぶ。

精神看護学実習Ⅲ (6 単位) : [上級看護実践実習]

医療施設における直接ケアおよび間接ケアを精神専門看護のスーパービジョンを受けながら学び、精神看護専門看護師に必要とされる高度な看護実践能力を習得する。

4. 教育の進め方

- 1) 実習は精神看護学実習Ⅰ [CNS 役割実習]、精神看護学実習Ⅱ [医療施設における精神科診断・治療実習]、精神看護学実習Ⅲ : [上級看護実践実習]①必修：精神科看護領域 2 単位、②必修：リエゾン精神看護領域 2 単位、

- ③選択必修：精神科看護領域あるいは、リエゾン精神看護領域のいずれかの選択2単位とし、実施する。
- 2) 実習場において担当教員の指導と精神看護専門看護師を始めとする各施設の実習指導担当者の指導を受けながら実習を進める。
  - 3) 専門看護師の役割（実践、教育、相談、調整、コンサルテーション）について実習した内容を記録し、実習目標達成のための実習計画を作成し、修正しながら実行する。
  - 4) 専門看護師の役割（実践、教育、相談、調整、コンサルテーション）について実習した内容を事例に基づきレポートする。
  5. 実習施設：杏林大学医学部附属病院、東京武蔵野病院、聖路加国際病院、井之頭病院にて実施する。
  6. 成績評価方法：最終提出レポート(100%)にて評価する。